



学校公開デーへの参観ありがとうございました

11月16日(土)、小中学校で学校公開デーを行いました。およそ150人の保護者、地域の皆様にお越しいただきました。お忙しい中、参観いただきありがとうございました。

また、午後には、小中PTA主催の合同人権研修が開催されました。ネットの世界での偏見や差別について、6人一組のグループに分かれ、和気あいあいとした雰囲気の中で、研修が進められました。様々なワークショップの中で、グループ分けで仲間に入れられない不安な気持ちや、寂しい気持ちを体験したり、ラインのやり取りの中でライン仲間から外される側の気持ちを体験したりしました。また、悩みを相談する時、相手の対応でどんな気持ちになるか、その違いも体験しました。いかにもめんどくさそうに聞く、上から目線で話を聞く、相談をさえぎって自分の意見を言う、目を見てしっかりと話を聞き最後に「話をしてくれてありがとう」の言葉をかける。どれが相談する側にとって満足できる、安心できる対応かは誰でも分かると思いますが、改めて、ついつい忙しさにかまけていい加減な対応をしていることに気づかされ、反省させられました。講師の先生からは、「1日1分でもいいので子どもの目を見て話を聞く時間をつくる。」その積み重ねが大きな違いになることを教えていただきました。



そして、学校教育活動に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。今後、学校支援委員会の方で集計をしていただき、次年度の教育活動の参考となるよう、「提言」としてまとめていただきます。学校としましても、保護者の皆様からいただいた意見について、共通理解を図り、できるところから一つずつ改善を進めて参ります。

様々な分野で子どもたちのがんばりが認められました



- ◇ 統計グラフ全国コンクール 佳作：3年 柳生さん（三重県知事賞受賞）
- ◇ 毎日パソコン入力コンクール 全国大会予選5位：2年 水谷さん（全国大会へ、この他、全国中学生創造物づくり教育フェア パソコン入力部門でも、全国大会への出場権を獲得しました。）
- ◇ 全国硬筆コンクール 優秀特選：3年 西村さん、特選：2年 小山さん、金賞：3年 杉本さん、2年 遠山さん、銀賞：3年 山下さん、2年 田村さん
- ◇ 「いっしょに読もう！新聞コンクール」 奨励賞：3年 折戸さん、学校としても、学校奨励賞に選ばれました
- ◇ 大切な命を守る全国中学・高校生作文コンクール(三重県審査) 優秀賞：2年 田辺さん
- ◇ J A 共済小中学生書道コンクール 日本農業新聞賞：2年 遠山さん
- ◇ 三重県薬物乱用防止ポスター 佳作：2年 菅野さん
- ◇ 三重県中学生のメッセージ2019 地域優秀賞：2年 田辺さん
- ◇ 三重県地球温暖化防止啓発ポスター 優秀賞：1年 森尾さん、佳作：2年 門前さん
- ◇ 津市環境ポスター 特選：2年 亀井さん、入選：3年 吉田さん、2年 新原さん、2年 中山さん、2年 八谷さん、2年 小山さん、1年 田阪さん

- ◇ 津市民大会バスケットボール 優秀選手：1年 有馬さん
- ◇ 津市スポーツ奨励賞 1年 橋本さん
- ◇ 税の標語 津間税会会長賞：2年 山下さん



年末の交通安全県民運動が始まっています

今年も年末恒例の交通安全県民運動が始まりました。期間は12月1日（日）から10日（火）の10日間です。今回の運動の重点は、高齢者と子どもの交通事故防止、シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底、横断歩道における歩行者優先の徹底、飲酒運転の根絶となっています。

横断歩道での歩行者優先については、三重県が全国でワースト1という調査結果も報告されています。生徒のみなさんも、信号のない横断歩道では、横断の意思表示をする（三重県の現状では、車はなかなか止まってくれないということにも留意する必要があります。）など、お互いが安全に努める必要があります。そして、止まってくれた車に、ありがとうの言葉をかけたり、軽く会釈をしたりすることで、お互いが気持ちよく、また、

ドライバーにとっては安全運転への意欲につながることもなります。自動車の安全対策技術も日進月歩です。交通事故のない社会が実現する日も近いかもしれません。が、生徒のみなさん、自転車に乗るときのヘルメットも忘れずに！



ところで、前号で、中学生の交通安全弁論大会について紹介しました。その中で、歌手のさだまさしさんの「償い」という曲を取り上げて発表した人がいました。また、この曲に関わっては、もう10年以上前の裁判で、罪を犯した少年2人に対し、裁判長がこの曲の歌詞を引用して諭したということもありました。裁判の中で「深くおわびします」と口では反省するものの、反省の色がみえない少年に対し、裁判長は判決を言い渡した後、「この歌の、せめて歌詞だけでも読めば、なぜ君らの反省の弁が人の心を打たないか分かるだろう。」と少年にこの曲の歌詞を通して説諭しました。

「償い」は、さだまさしさんが知人の実話をもとに書き上げた曲です。私も、この曲の歌詞を読むたびに、心の中に熱いものがこみ上げてくるそんな気持ちになります。人の命の重さ、尊さ、「償う」とはどういうことか、人の心の優しさなど、いろんなことを考えさせられます。

「償い」 作詩・作曲：さだまさし

年末になると ゆうちゃんは薄い給料袋の封も切らずに
必ず横町の角にある郵便局へとび込んでゆくのだ
仲間はそんな彼をみてみんな貯金が趣味のしみだった奴だと
飲んだ勢いで嘲笑っても ゆうちゃんはニコニコ笑うばかり

僕だけが知っているのだ 彼はここへ来る前にたった一度だけ
たった一度だけ哀しい誤ちを犯してしまったのだ
配達帰りの雨の夜 横断歩道の人影に
ブレーキが間にあわなかった 彼はその日とても疲れてた

人殺し あんたを許さないと 彼をののしった
被害者の奥さんの涙の足元で
彼はひたすら大声で泣きながら
ただ頭を床にこすりつけるだけだった

それから彼は人が変わった 何もかも
忘れて 働いて 働いて
償いきれるはずもないが せめてもと
毎月あの人に仕送りをしている

今日ゆうちゃんが僕の部屋へ 泣きながら走り込んで来た
しゃくりあげながら 彼は一通の手紙を抱きしめていた
それは事件から数えてようやく七年目に初めて
あの奥さんから初めて彼宛に届いた便り

「ありがとう あなたの優しい気持ちは とてもよくわかりました
だから どうぞ送金はやめて下さい あなたの文字を見る度に
主人を思い出して辛いのです あなたの気持ちはわかるけど
それよりどうかもう あなたご自身の人生を
もとに戻してあげて欲しい」

手紙の中身はどうでもよかった それよりも
償いきれるはずもない あの人から
返事が来たのが ありがたくて ありがたくて
ありがたくて ありがたくて ありがたくて

神様って 思わず僕は叫んでいた
彼は許されたかと思っただけですか
来月も郵便局へ通うはずの
やさしい人を許してくれて ありがとう

人間って哀しいね だってみんなやさしい
それが傷つけあって かばいあって
何だかもらい泣きの涙が とまらなくて
とまらなくて とまらなくて とまらなくて

毎日のお知らせや、子どもたちの学校での様子をホームページに掲載していますのでご覧ください。
ホームページアドレス <http://ednet.res-edu.ed.jp/c-minamigaoka/>